

橋梁補修 DIY カタログ集

令和 7 年 3 月

目 次

1. はじめに	1
2. 橋梁補修 DIY 工法一覧表.....	2
3. 橋梁補修 DIY 工法カタログ	3

・改訂履歴

Ver.1.0

令和 7 年 3 月

1. はじめに

橋梁の補修工事においては、定期点検の実施後、実際に補修工事が行われるまでに数年の期間が空くことが多く、その間に損傷が進行してしまうことが懸念されていました。特に、軽微な損傷であっても放置することで劣化が加速し、大規模な補修が必要になるケースも少なくありません。

そこで、本資料では、定期点検から補修工事までの期間において、特別な資機材を必要とせず、誰でも簡単に施工できる補修工法や材料について調査・整理しました。これにより、損傷の進行を抑え、橋梁の長寿命化を図ることが可能になります。本資料では「橋梁補修 DIY 工法」として、以下の内容を分かりやすくまとめています。

活用できる場面：どのような橋梁の損傷に対応できるのか

施工方法：具体的な補修手順や使用する材料について

注意点：施工時のポイントや安全管理の留意事項

また、写真やイラストを用いることで、実際の施工イメージをつかみやすくし、誰でも理解しやすい内容としています。

本資料を活用し、適切な補修を行うことで、橋梁の健全性を維持し、より安全なインフラ管理に貢献できればと考えます。

2. 橋梁補修 DIY 工法一覧表

No.	工種名	分類	具体的な用途
1	発泡ウレタン充填剤	漏水防止	歩車道境界ブロックの目地部への充填により漏水を防止 地覆の伸縮目地に設けられたカバープレート の隙間へ充填により漏水を防止 壁高欄伸縮目地への充填により漏水を防止
2	シリコン製融着テープ	劣化進行抑制 漏水防止	排水管の孔食部に巻き付けて腐食進行抑制 排水管接続部の破断箇所に関き付けて漏水 を防止 水抜き孔と導水管の接続部に巻き付けて漏 水防止
3	シリコン製粘着シート	漏水防止	歩車道境界ブロックの目地部への貼り付け 壁高欄の伸縮目地に貼り付けて漏水防止 上下線境界部に貼り付けて漏水防止
4	アスファルト接合補修材	劣化因子侵入防止	アスファルト舗装ひびわれ部への水の浸入 防止
5	ゴム製水切り材	滞水防止	地覆端部下面での滞水防止 躯体側面の導水・滞水防止 ボックスカルバート頂版端部の滞水防止
6	シリコンコーティング材	劣化進行抑制	支承部のアンカーボルトに塗布して腐食を 抑制 ベースプレート式防護柵に塗布して腐食を 抑制 土中建込式の高欄基部に塗布して腐食を抑制
7	シリコン製潤滑剤	劣化進行抑制	腐食によって桁追従機能を阻害された可動 支承の潤滑剤 照明柱等のボルトナット防錆
8	ゴムコーティング材	劣化因子侵入防止	ゴム支承やゴム製の伸縮装置に生じるひび われや剥がれに塗布することによる内部鋼 板の腐食防止
9	シリコン製注入材 ※ガン注入を想定	漏水防止	横断歩道橋目地からの漏水防止
10	速硬性防草砂	滞水防止	橋座面における漏水・滞水の解消
11	エポキシ樹脂補修パ テ	腐食進行抑制	横断歩道橋の階段部や鋼製高欄の縦棧・横 棧等の孔食箇所の穴埋め

3. 橋梁補修 DIY 工法カタログ

次頁以降に橋梁補修 DIY 工法のカatalogと事例集を掲載します。各工種のカatalogの構成は、表 3.1 に、事例集の構成を表 3.2 に示しています。

表 3.1 カatalogの構成について

ページ	内容	イメージ
1 ページ目	・ タイトル ・ 製品概要 ・ 橋梁での使用事例	
2 ページ目	・ 施工手順 ・ 施工時の注意点・留意点 ・ 問合せ先	

表 3.2 事例集の構成について

ページ	内容	イメージ
1 ページ目	・ 橋梁での実施事例 ・ 具体的な活用事例案	

橋梁補修 DIY カタログ集

【製品紹介】発泡ウレタン充填剤

発泡ウレタン充填剤とは

歩車道境界ブロックと舗装の間の隙間等、雨水が流れ込む場所には、応急的な止水対策として使用できます。

製品の特長

特徴①：簡単に施工できる現場発泡型の止水材

特徴②：工場成形品や機械吹きとは異なり、現場発泡タイプであるため、コンプレッサーなどの機械が不要で、現場状況にあわせて施工が可能

特徴③：動力を使わないので、近隣への騒音対策は不要

特徴④：用途に応じて1液タイプと2液混合タイプがあるので現場状況に応じて使い分けが可能

橋梁での使用事例



発泡ウレタン充填剤使用時の施工手順と留意点

1. 施工の前に

- ✓ 接着を確実にするために、まずは下地処理を行ってください。
- ✓ 付着すると除去できなくなるので、施工箇所以外は必ず養生するようにしてください。

⚠ ポリエチレン・ポリプロピレン・テフロン樹脂には付着しないので使用しないようにしましょう。
密閉箇所での施工は避けましょう。

2. 缶を20回以上振る

- ✓ 手や肌に材料が付着すると、とれないことがあるので、必ず防護具を着用してください。
- ✓ 硬化不良の原因となるので、缶を20回以上振るようにしてください。

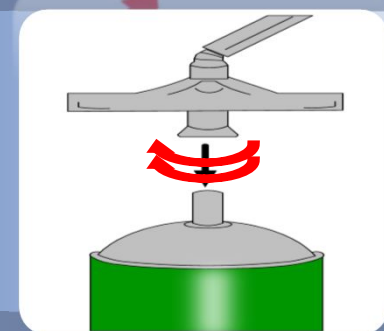
⚠ 使用可能な温度帯(5~35℃)に注意しましょう。
寒冷時には缶を20℃程度まで温めてから使用しましょう。



3. ノズルを装着する

- ✓ 付属のノズルを缶のネジ山が見えなくなるまでねじ込んでください。

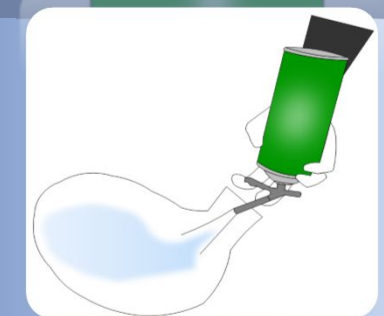
⚠ ノズルの差し込みが弱いと隙間から液が漏れる可能性がありますので注意しましょう。



4. フォームの捨て吹き（試し出し）

- ✓ ビニール袋等に捨て吹きを行います。
- ✓ 常にカードリッジが逆さとなるように使用してください。

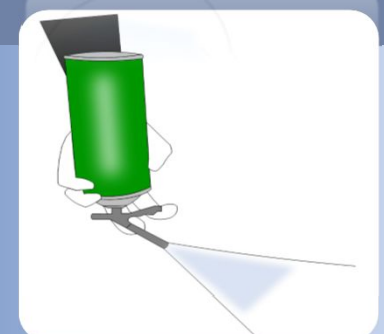
⚠ 周囲は火気厳禁です。



5. フォームの吐き出し

- ✓ 隙間ができないように数回に分け、ゆっくりと施工しましょう。
- ✓ 作業を終えるときには中身を使い切ってください。
- ✓ 1液タイプは1~2時間程度で硬化するので養生時間を確保しましょう。

⚠ 養生後に十分に固まったことを確かめ、はみ出た充填剤を、カッター等で水が溜まらないよう斜めにカットしましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】シリコン製融着テープ

シリコン製融着テープとは

排水管などの水漏れ対策等に適切な材料です。
その他、巻きつけるだけでサビ止め・絶縁被覆・結束・滑り止め等、多くの用途に使用することができます。

製品の特長

特徴①：排水管等の漏水・止水に適用可能

特徴②：シリコン由来の材料で、耐久性を有する

特徴③：引っ張って巻き付けるだけの簡単に施工可能

特徴④：粘着剤は不使用のため触ってもベタつかない

橋梁での使用事例

水抜きパイプと導水管の接続部に巻き付けて固定することが可能

施工前

施工中

施工後

排水管の欠損部に巻き付けて簡易補修

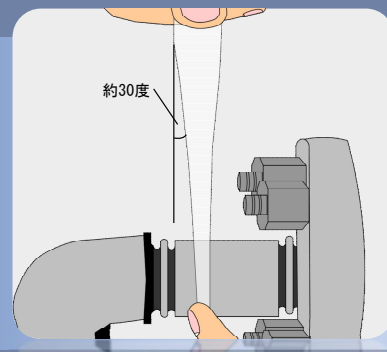
弱点となりやすい屈折部の止水に

シリコン製融着テープ使用時の施工手順と留意点

1. テープカット・フィルム剥がし

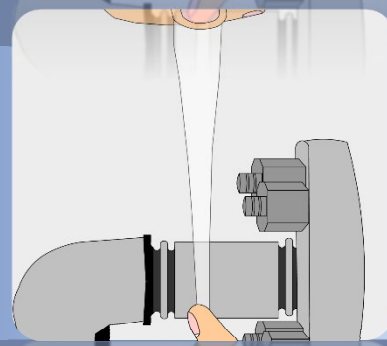
- ✓巻き付ける前にフィルムを剥がしてから貼り付けてください。
- ✓施工箇所にテープの先端を押さえつけながら、テープが30度程度になるように斜めにカットしてください。

 強酸、強アルカリ、有機溶剤がある場所では使用しないようにしましょう



2. テープの接着

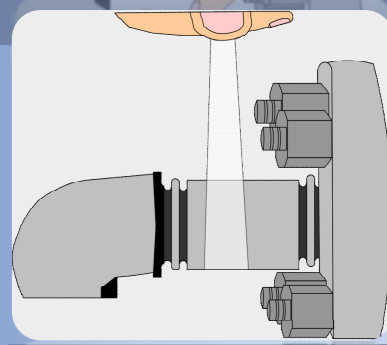
- ✓施工箇所にテープを押さえつけたまま引っ張り、まずは1周巻きつけてください。



3. テープを巻き始める

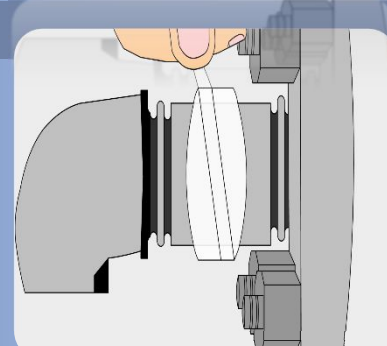
- ✓1周させるごとにテープの幅が半分となるように強く引っ張りながら巻いてください。

引っ張りすぎると破れてしまうので、巻き付けが難しいところに使用する際には注意してください。



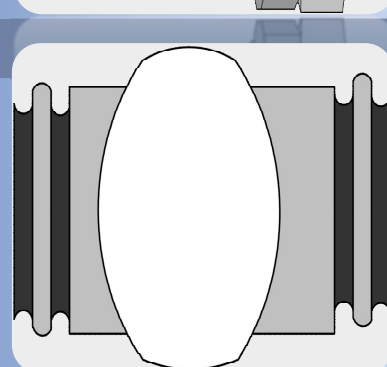
4. テープを巻き進める

- ✓水漏れ箇所を補修する場合は、集中的に巻き付けるようにしてください。
- ✓腐食箇所等を補修する場合は、半分程度をラップさせながら旋状に巻いてください。



5. テープの巻き終わり

- ✓巻き終わりには、これまで巻いた全幅を包み込むように巻き、圧着するようにしましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】シリコン製粘着シート

シリコン製粘着シートとは

シリコン製粘着シートは貼り付けるだけの施工で、隙間からの漏水を防止し、橋梁の劣化を予防することができます。

製品の特長

特徴①：地覆等への漏水・止水に使用可能

特徴②：特別な機材等は不要で様々な場所で使用可能

特徴③：冬期でも使用可能

特徴④：振動に対して追従性があり、長期で使用可能

橋梁での使用事例

施工前

施工中

施工後

排水溝角部の
止水対策に

上下線境界部の
伝い水防止に

壁高欄の目地か
らの漏水防止に

シリコン製粘着シート使用時の施工手順と留意点

1. シートカット・フィルム剥がし

✓接地面に対してケレン等を行って下地処理を行ってください。

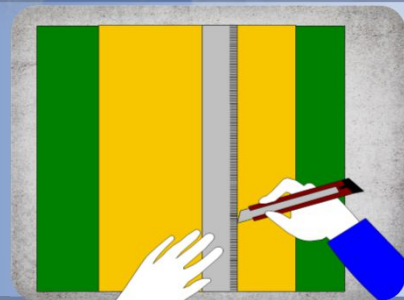
⚠ 接着面が完全に乾燥しているか施工前に必ず確認しましょう。



2. シートの加工と貼り付け準備

✓施工箇所に合わせてシートをカットし、寸法調整を行ってください。

✓カットが終わったらフィルムを剥がして貼り付ける準備をします。



3. シートの貼り付け

✓上から下へシートを慎重に貼り付けてください。

✓貼り付けたら手で押す等して設置面とシートをなじませましょう。

⚠ シートが重なってラップ部ができる時には、20mm以上のラップできているか確認しましょう。

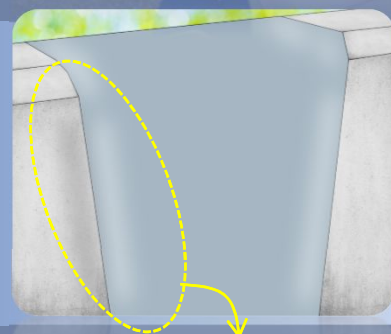


4. 端部用のテープを貼り付ける

✓まずは端部用のテープをフィルムを剥がさずに貼り付けてください。

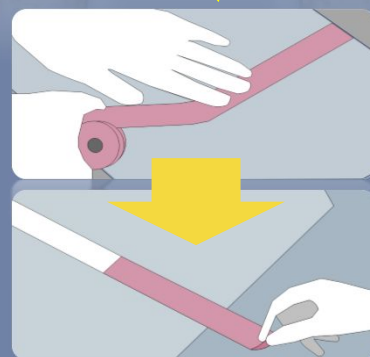
✓その後フィルムの上からロール等を使って押し付けてください。

⚠ 3.のようにラップ部に対してもこの手順を行う必要がありますので注意しましょう。



5. 養生

✓効果・接着までは1昼夜かかるため、それまでは触らずに養生を行ってください。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター

〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）

TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109

<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】アスファルト接合補修材

アスファルト接合補修材とは

舗装マーカースや視線誘導鋸の接着、小さなひびわれの補修に使用できます。
アスファルトやコンクリート舗装面にも使用できます。

製品の特長

特徴①：舗装面の小さなひびわれの補修材料

特徴②：容器から取り出しトーチバーナーで短時間施工が可能

橋梁での使用事例



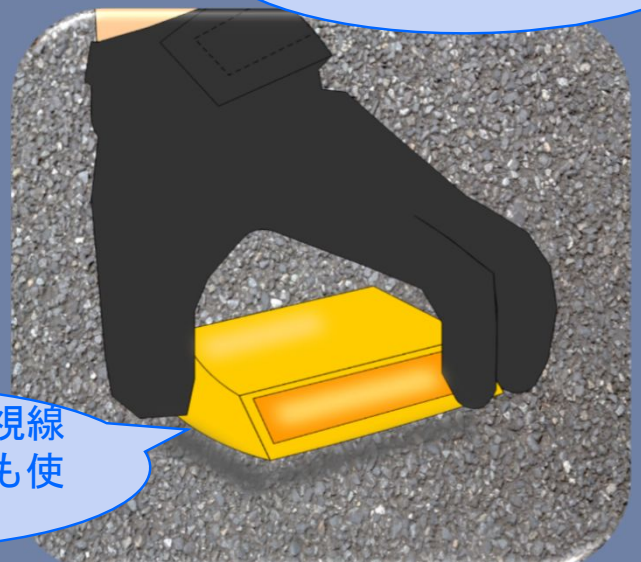
少ない資機材
で施工可能



舗装のひびわれに簡
単に補修ができる



施工後



舗装マーカースや視線
誘導鋸の接着にも使
用可能

アスファルト接合補修材使用時の施工手順と留意点

1. 施工前

- ✓施工時は、可能な限り前日が晴天で、路面が乾燥している日に行うようにします。

⚠ 適用温度帯（-22℃～64℃）があるので注意しましょう。
雨天時の施工は避けましょう。



2. 清掃と乾燥

- ✓接着力と耐久性を確保するために、ひびわれ周辺と内部を清掃してください。
- ✓水洗いを行った場合には、水分をバーナーで飛ばして、しっかりと乾燥させてください。



3. クラックシール材を注入

- ✓ひびわれが3mm以上の場合は、シール材を使用してひびわれに注入するようにしてください。
- ※3mm未満のひびわれは、次ステップのひびわれ用シールのみ施工するようにしてください。

⚠ 高いところから注入すると、品質不良となるので注意しましょう。
また、加熱し過ぎると発火するので、注意しましょう。



4. シール接着

- ✓5mmを超えるひびわれは、補修材とひびわれ用シールを併用してください。
- ✓ひびわれ用シールをひびわれの上から貼り付けた後、ローラーや踏み付け等によって圧着してください。

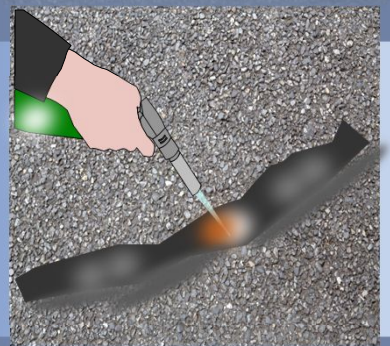
⚠ 圧着後には、忘れずに剥離紙を剥がしてください。



5. 仕上げにガスバーナーで炙る

- ✓貼り付け後は、ガスバーナーであぶって路面となじませてください。

⚠ 路面の凹凸が浮き出てくれば密着していることになりますので必ず確認しましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】ゴム製水切り材

ゴム製水切り材とは

地覆の下端等、車両の跳ね返り水などが伝ってきて、主桁等の部材への水掛かりが予想されるところに設置することができます。

製品の特長

特徴①：軽量で柔軟な材料を使用しており、簡単に施工が可能

特徴②：最小限の材料で、短時間の施工が可能

橋梁での使用事例

ゴム製水切り材の
設置位置

側面を伝った水が滞水
しやすい箇所に設置

桁下に水がまわること
で生じる、主桁等の損
傷の進行を抑制可能

垂直な場所でも簡単に伝い
水を防止可能



ゴム製水切り材使用時の施工手順と留意点

1. 準備工

- ✓事前に取り付け箇所の確認を行ってください。
- ✓施工時には防護メガネ、防塵マスク、手袋等が必要となるので、準備しておきましょう。

 下地となるコンクリートが乾燥状態であることを確認し、材料は水や湿気の少ない場所でねじれ等が生じないように保管しておきましょう。

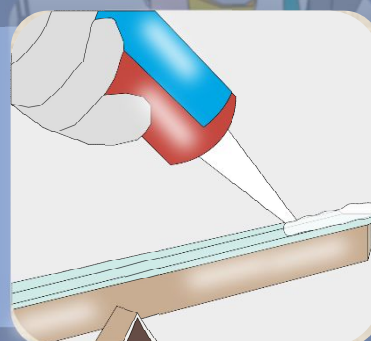
2. 接着面の下地処理を行う

- ✓接着を阻害するような凹凸等は不陸調整を行ってから作業してください。
- ✓コンクリート表面の汚れ等は、付着が悪くなるので、ディスクサンダーやブラシ等で除去するようにしてください。



3. 水切り材に接着剤を塗布する

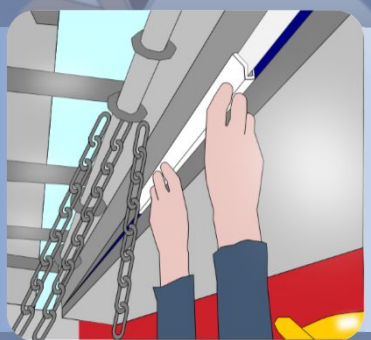
- ✓先立って設置位置の墨出しを行い、養生テープを貼りましょう。
- ✓接着面に接着剤を塗布してください。



4. 水切り材を設置する

- ✓取付具等を使用して、しっかりと圧着してください。
- ✓隙間ができないように、水切り材同士の接続部にも接着剤を塗布してください。
- ✓端部からはみ出たシール材は、ヘラなどで除去してください。

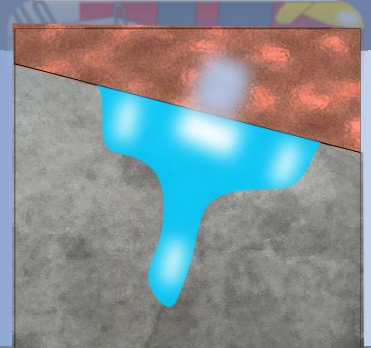
 しっかりと施工するために、2人以上で作業するようにしましょう。



5. 養生を行う

- ✓養生時間(20℃以上：24時間以上 5～20℃：48時間以上)を厳守してください。

 設置が安定しない場合には、水切り材1本の両端と中央に固定用養生テープを貼って養生しましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15 (中部技術事務所庁舎内1階)
TEL:052-722-7108 (代表) FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】シリコンコーティング材

シリコンコーティング材とは

コンクリート面の保護、鋼材の防錆にも効果を発揮します。シールが貼れない箇所でも、確実に接着してシリコンゴムの塗膜を形成し、雨水の浸入を防ぎます。

製品の特長

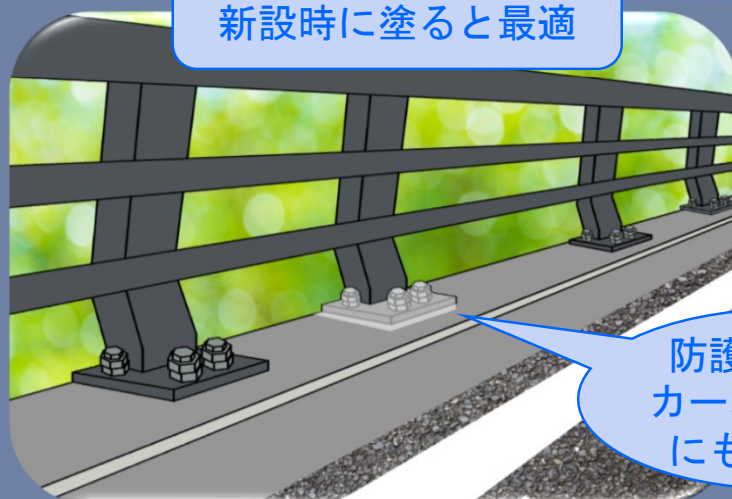
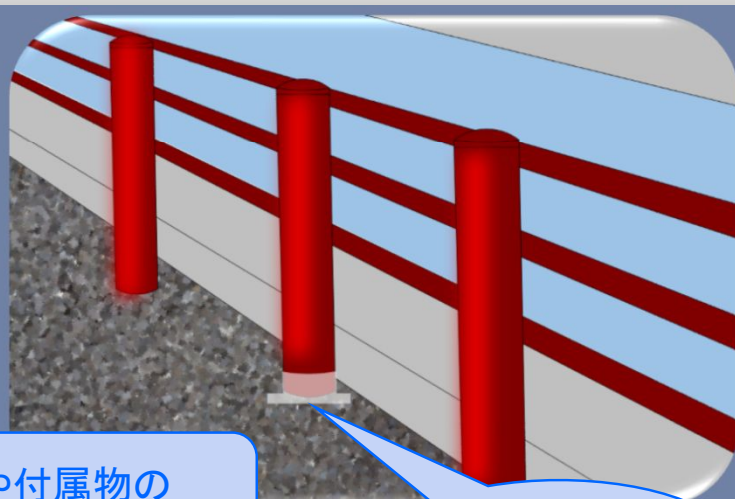
特徴①：幅広い温度範囲（ -40°C ～ 150°C ）で効果を発揮

特徴②：1液型のため作業性に優れ、はけ・ローラー・スプレー塗リ（エアレスタイプ）が使用可能

特徴③：塗膜（シリコンゴム）は、撥水性・防水性に優れる

特徴④：風雨・紫外線に対する耐性を有する

橋梁での使用事例



防護柵のアンカーボルト防錆にも使用可能

シリコンコーティング材使用時の施工手順と留意点

1. 施工の前に

- ✓降雨直後、または降雨が予想される場合は作業は避けましょう。
- ✓被着面に付着しているゴミ、油分、汚れ等は、ワイヤーブラシや空拭き等できれいに清掃しましょう。
- ✓施工時には、ゴム手袋等を着用して皮膚へ付着しないように注意しましょう。



保管中に樹脂が沈降する場合があるので必ず攪拌してから使用しましょう。



2. プライマー塗布

- ✓ハケ塗り等でプライマーを薄く均一に塗布します。
- ✓プライマーを塗布後、常温下で30分ほど待ちます。



水分がにじみ出てくるような箇所(面)には不向きで、はがれことがあるので注意しましょう。
プライマーを塗らないとシリコン材自体が剥げてしまうので注意しましょう。



3. シリコンコーティング材塗布

- ✓指につかないくらい乾燥させた後に塗布しましょう。
- ✓ハケ塗り等でシリコンコーティング材をムラなく均一に塗布します。
- ✓粉じん、油分、水分等はできる限り除去しましょう。



塗布する箇所から5cm程度はみ出すイメージで塗るようにしましょう。



4. 養生

- ✓養生後、半日ほどで触れるようになり、1日でゴムに変わります。



降雨直後や降雨が予想される場合は、作業を中止するか、雨が掛からないように養生を行いましょう。

この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15 (中部技術事務所庁舎内1階)
TEL:052-722-7108 (代表) FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】シリコン製潤滑剤

シリコン製潤滑剤とは

対象物以外への付着の心配なく、細かい部分にピンポイントで塗布できる、ジャストサイズの筆塗りタイプ潤滑・脱脂剤シリーズ。無臭および低臭性でニオイ残りがせず、周囲に迷惑をかけることもありません。また、収納・保管に困らない、工具箱に収納可能な省サイズです。

製品の特長

【特徴①】小さく筆塗りができるので、対象にピンポイントで塗布することが可能。

【特徴②】無臭のため、臭気を気にすることなく使用可能。

【特徴③】無色透明であり、塗布後でも損傷を目視することが可能。

橋梁での使用事例

施工前

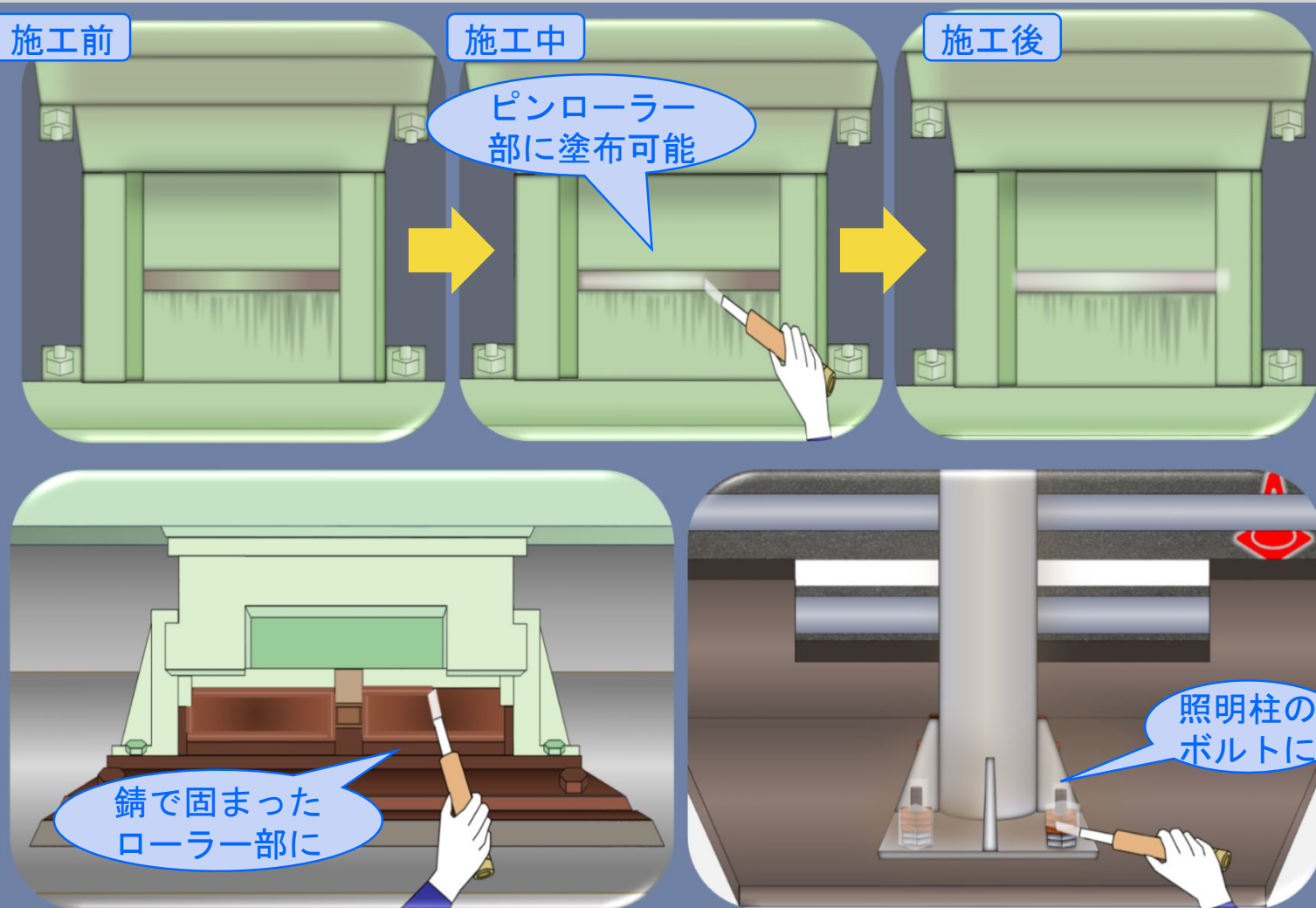
施工中

施工後

ピンローラー部に塗布可能

錆で固まったローラー部に

照明柱のボルトに



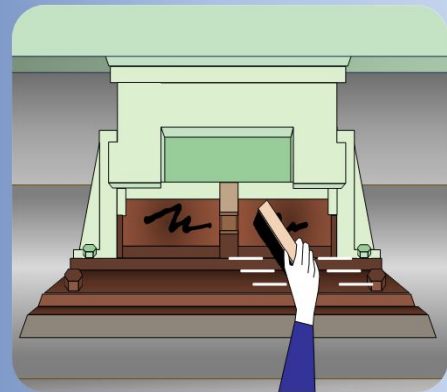
シリコン製潤滑剤使用時の施工手順と留意点

1. 施工の前に

- ✓塗る面のゴミ、油分、サビなどをよく落とします。
- ✓皮膚の弱い人はかぶれる恐れがあるので保護手袋を着用します。



- ・換気のよい所で使用するようにしましょう。
- ・引火性があるので、火気に近づけたり、火花・静電気が起きやすい場所では使用しないようにしましょう。



2. 材料の準備

- ✓中身がこぼれないように、ボトルを立てた状態でキャップを緩めてから作業を行います。



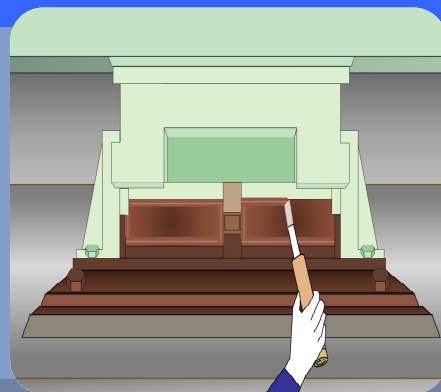
あらかじめ目立たない部分で試してから使用するようにしましょう。

3. 対象への塗布

- ✓筆またはウエスなどに適量含ませて塗布します。



通電している電気製品、電気装置の近くでは使用せず、また使用箇所が十分に乾燥したことを確認してから電源を入れてください。

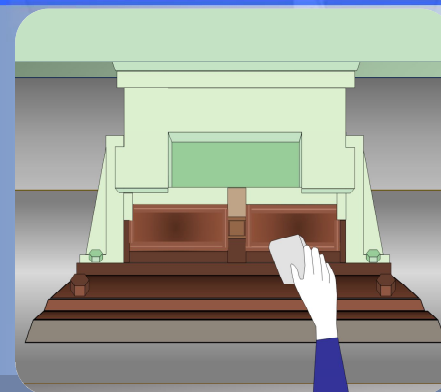


4. 養生

- ✓必要に応じてウエスなどで拭き取ります。



- ・目的以外の場所に付着した場合は、すぐに拭き取るようにしましょう。
- ・ゴムやプラスチック類に付着したままにしておくと、変質・変形する可能性があるので注意しましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】シリコン製注入材

シリコン製注入材とは

施工時はペースト状で、空気中の湿気に触れると弾性体に硬化し、接着・シーリング効果を発揮します。一成分形でカートリッジから押し出しやすく、一般に5℃～35℃の広い温度帯で作業ができます。光沢のある色調で、広いカラーバリエーションもあります。

製品の特長

【特徴①】 耐候性、耐熱性、耐寒性、耐水性に優れる。

【特徴②】 太陽光・オゾン・風雪・海水や温度変化による影響を受けにくい。

【特徴③】 液垂れが少ないため施工が容易。

橋梁での使用事例

施工前

施工中

施工後

鋼部材とコンクリートの
界面の腐食抑制に

水の浸入経路となる
マンホール蓋の淵に

弱点となりやすい
横断歩道橋の目地
止水に

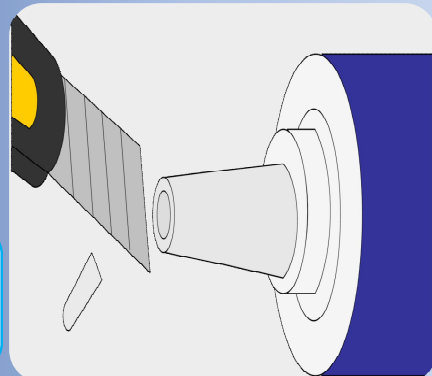
シリコン製注入材使用時の施工手順と留意点

1. 施工の前に

- ✓シールする面の油・ほこり・さびなどを取り除きます。
- ✓十分に乾燥させます。
- ✓ノズルをカッターなどで斜めにカットします。



湿潤面には付着しにくいので、必ず乾燥していることを確認してから施工を行ってください。

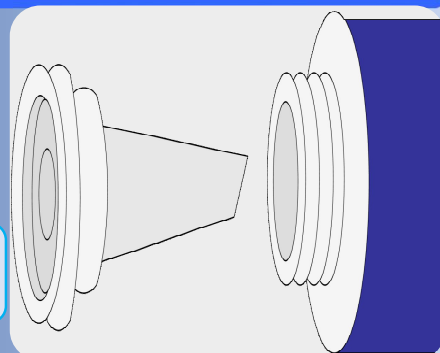


2. 防湿膜を破る

- ✓備え付けのノズルを外します。
- ✓取り外したノズルを用いて内部の防湿膜（密封シール）を突き破ることで、中身が押し出せるようにします。



密封シールを突き破った際に中身が飛び散らないように注意しましょう。

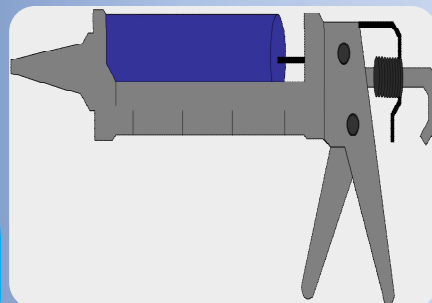


3. ガンに装填

- ✓コーキングガンのロッドを引き、充填材を装填します。
- ✓そのまま使用することもできますが、ガンに装填することで、安定して中身を押し出すことも可能です。
- ✓一緒に専用プライマーを使用するとより高い接着効果が得られます。



注入材の押し出しが可能な温度帯は-15℃～50℃ですので、極端に寒い地域だと使用することができないので注意しましょう。



4. 施工

- ✓ガンの先端を対象にあてがい、対象に注入します。
- ✓必要に応じて充填後直ちに（皮膜形成前）、ヘラ押さえ（仕上げ）を行います。



・注入材の上から塗料などを塗布することはできないので注意しましょう。
・紫外線が当たる場所では、黄色く変色することがあります。

この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市中区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】ゴムコーティング材

ゴムコーティング材とは

表面に柔軟性のある合成ゴム膜を形成することで、空気や水を遮断し、金属のサビや木材の腐食を防止します。特に塩害・酸・アルカリ・大気汚染に非常に優れ、過酷な気象条件下でも優れた耐久性を示します。

製品の特長

【特徴①】 ゴムだけでなく、金属・コンクリート・繊維など幅広い材料に対して適用可能

【特徴②】 $-34^{\circ}\text{C} \sim 93^{\circ}\text{C}$ の幅広い温度帯で使用可能

【特徴③】 刷毛・ローラー・ガン吹きなど様々な方法で塗布可能

橋梁での使用事例

施工前

施工中

施工後

ゴム製伸縮装置
の剥がれに

ゴム製伸縮装置
のひびわれに

壁高欄の目地か
らの漏水防止に

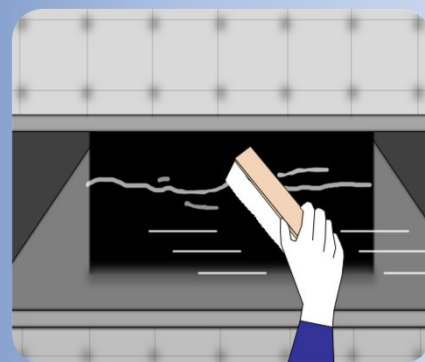
ゴムコーティング材使用時の施工手順と留意点

1. 施工前に

- ✓塗る面のゴミ、油分などを除去します。
- ✓使用する前に容器のフタに手を添えて開けて、塗料を底から十分にかき混ぜます。



- ・火気厳禁です。
- ・有機溶剤となりますので、換気に注意しましょう。
- ・吸い込んだり、皮膚に触れないような服装で実施しましょう。

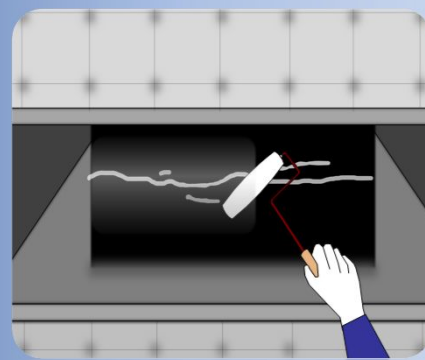


2. コーティング剤の施工

- ✓ガン吹きの場合は対象から15～20cm離れたところから、満遍なく2～3回塗り重ねます。
- ✓刷毛・ローラー塗りの場合は、必要に応じて0～30%程度に薄め、ゆっくりと混ぜてから塗ります。



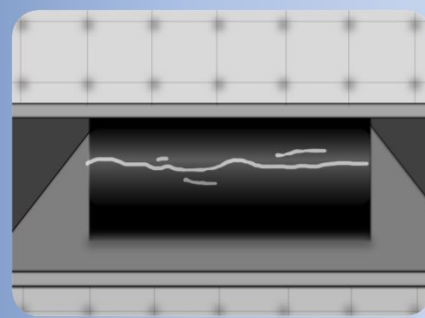
- ・目立たない部分で試し塗りをし、乾燥性・下地への影響・付着性等をよく調べて異常がないことを確かめてから塗りましょう。
- ・塗料がついては困るところや周辺は、あらかじめ新聞紙やマスキングテープなどで覆うようにしましょう。



3. 乾燥させる

- ✓塗布後、約4時間程度乾燥させます。

- ! 塗り重ねを行う場合には、20分～30分程度待ってから塗り重ねるようにしましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】速硬性防草砂

速硬性防草砂とは

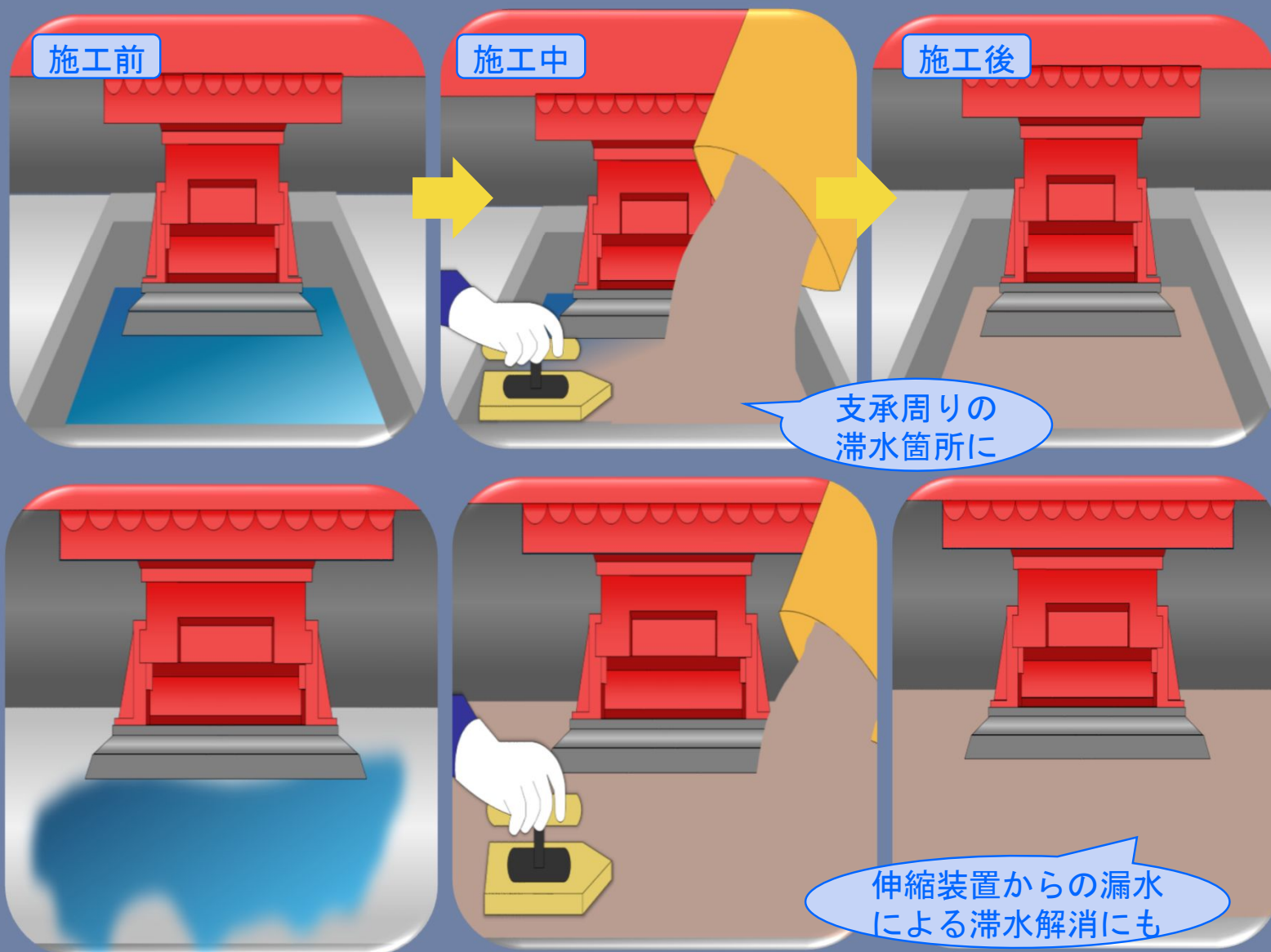
水をかけてから約3日～1週間で固まる防草砂です。防草砂を撒いてから水をかけるだけなので、施工性に優れます。施工箇所はセメントやコンクリートよりも水捌けが良くなり、滞水しにくくなります。

製品の特長

【特徴①】 防草砂を撒いて散水するだけの簡単な施工

【特徴②】 水捌けが良くなり、損傷の原因となる滞水を解消可能

橋梁での使用事例



速硬性防草砂使用時の施工手順と留意点

1. 施工前に

- ✓ 除草や繁茂など、作業の支障となるものを除去し、可能な限り施工面を平坦するようにします。



作業員にマスクなどの装備は不要とされていますが、可能な限り吸い込んだり、皮膚に触れないような格好で作業しましょう。

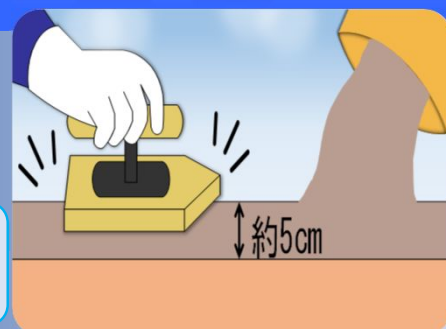


2. 敷設

- ✓ 対象箇所に防草砂を撒きます。
- ✓ 敷き終わったら表面を木コテなどで軽くたたき込んでしっかり転圧します。



- ・ 可能な限り厚さ5cmで施工しましょう。
- ・ ただし支承のアンカーボルトなどが埋まってしまう場合には、施工厚を薄くするようにしましょう。

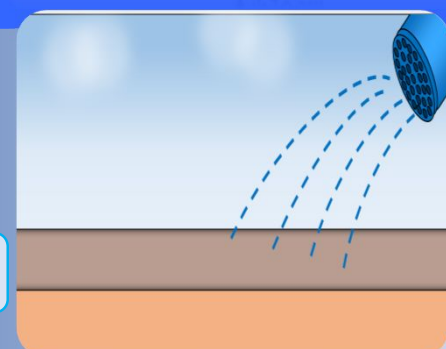


3. 散水

- ✓ 目の細かいジョーロやシャワーガンで2回に分けて均一に丁寧に散水します。
- ✓ 2回目は1時間程度時間を空け、満遍なく十分に散水します。



散水量の目安は、敷いた防草砂と同量以上となるようにしましょう。

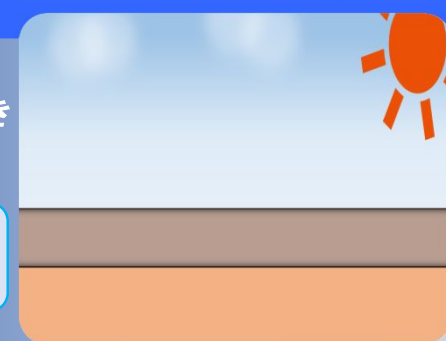


4. 養生・完成

- ✓ 気温・温度条件にもよりますが、1週間かけて防草砂が硬化していきます。



橋座面のような日射を受けない場所では、防草砂の硬化まで時間がかかることがあります。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



【製品紹介】エポキシ樹脂補修パテ

エポキシ樹脂補修パテとは

練るだけで簡単に使える接着補修パテであり、様々な材質に使用することができます。約15分で実用強度を発現し、水中でも硬化することが可能です。

製品の特長

【特長①】 約15分で実用強度が発現

【特長②】 ほとんどの材質に使用でき、湿潤面・水中でも硬化可能

【特長③】 孔明、ヤスリがけ、塗装が可能

橋梁での使用事例

施工前

施工中

施工後

伸縮装置のボルトホールなどの穴埋めに

施工前

施工中

施工後

高欄などに発生した孔食に

エポキシ樹脂補修パテ使用時の施工手順と留意点

1. 施工前に

✓施工前にブラシなどで施工の支障となるものを除去します。

⚠ 可能な限り表面に浮いた錆も落とすようにしましょう。



2. パテで穴埋

✓断面欠損部にパテを塗布します。



- ・ 湿潤面でも施工可能ですが、フッ素樹脂やシリコン樹脂、塩ビの上からは施工できないので、注意しましょう。
- ・ 開封してから使用できるのは4分程度が目途となるので注意しましょう。

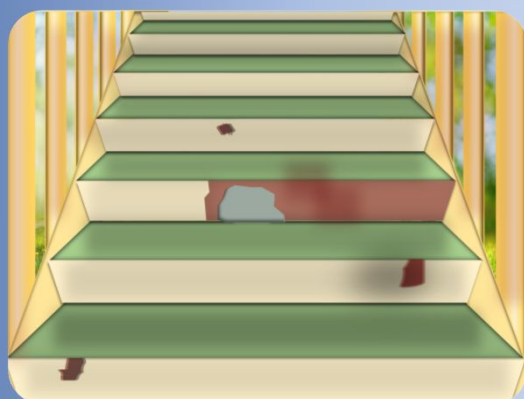


3. 乾燥させる

✓施工後約15分間程度、固まるまで養生します。



歩行者の通行がある場合には、つま先などで引っかからないよう周りを養生しておきましょう。



この製品に関する問合せ先



国土交通省中部地方整備局中部道路メンテナンスセンター
〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1-15（中部技術事務所庁舎内1階）
TEL:052-722-7108（代表） FAX:052-722-7109
<https://www.cbr.mlit.go.jp/chubumc/>



橋梁補修 DIY 事例集

橋梁補修DIY事例-発砲ウレタン充填剤-



事例①

【施工箇所】
歩車道境界ブロックの目地部

【施工目的】
隙間からの漏水防止



事例②

【施工箇所】
地覆の伸縮目地に設けられたカバープレートの隙間

【施工目的】
カバープレートの隙間から桁下への漏水防止



事例③

【施工箇所】
壁高欄に設けられた伸縮目地

【施工目的】
壁高欄伸縮目地から桁下への漏水防止

橋梁補修DIY事例-シリコン製融着テープ-



事例①

【施工箇所】
排水管の孔食部

【施工目的】
孔食が発生した排水管にテープを巻いて塞ぐことで水漏れを防止する。



事例②

【施工箇所】
排水管接続部の破断箇所

【施工目的】
排水管に発生した破断をテープでふさぐことで漏水を防止する。



事例③

【施工箇所】
水抜き孔と導水管の接続部

【施工目的】
水抜き孔と導水管の接続部にテープを巻いて塞ぐことで水漏れを防止する。

橋梁補修DIY事例-シリコン製粘着シート-



事例①

【施工箇所】
歩車道境界ブロックの目地部

【施工目的】
目地からの漏水防止



事例②

【施工箇所】
壁高欄の伸縮目地

【施工目的】
目地からの漏水防止



事例③

【施工箇所】
上下線境界部の目地部

【施工目的】
上下線境界からの漏水防止

橋梁補修DIY事例-アスファルト接合補修材-



施工前(準備品)

アスファルト道路のひびわれ部への水の浸入防止対策を実施

《準備するもの》

- ・ トーチバーナー
- ・ アスファルト接合補修材
- ・ 下地処理用機材(ブラシなど)
- ・ 水(発火時や皮膚についた時の応急用)



悪い施工事例

アスファルト接合補修を溶かして充填する際には、高いところから落下させることを避ける



良い施工事例

アスファルト接合補修材をトーチバーナーで溶かしてひびわれに充填する際には、できる限り近い位置から行き、確実に充填するようにする。

橋梁補修DIY事例-ゴム製水切り材-



事例①

【施工箇所】
地覆下面

【施工目的】
橋梁側面から伝ってくる水が主部材に掛かることを避けるためゴム製水切り材を設置



事例②

【施工箇所】
躯体などの側面

【施工目的】
側面を伝う水を避けるためにゴム製水切り材を設置

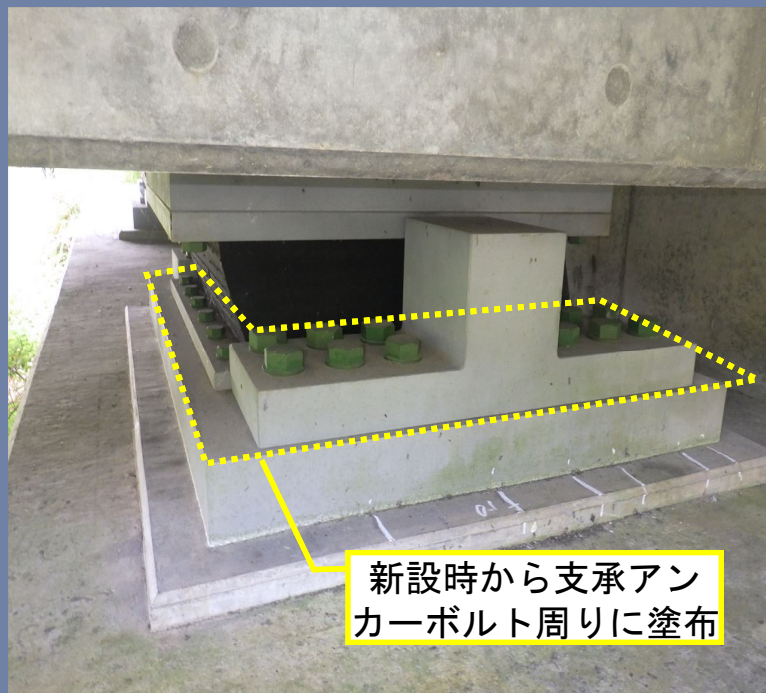


事例③

【施工箇所】
ボックスカルバート頂版端部

【施工目的】
ボックス側面から伝ってくる水が頂版端部に滞水することを避けるため、黄色の点線部分にゴム製水切り材を設置

橋梁補修DIY事例-シリコンコーティング材-



事例②

【施工箇所】
支承部のアンカーボルト

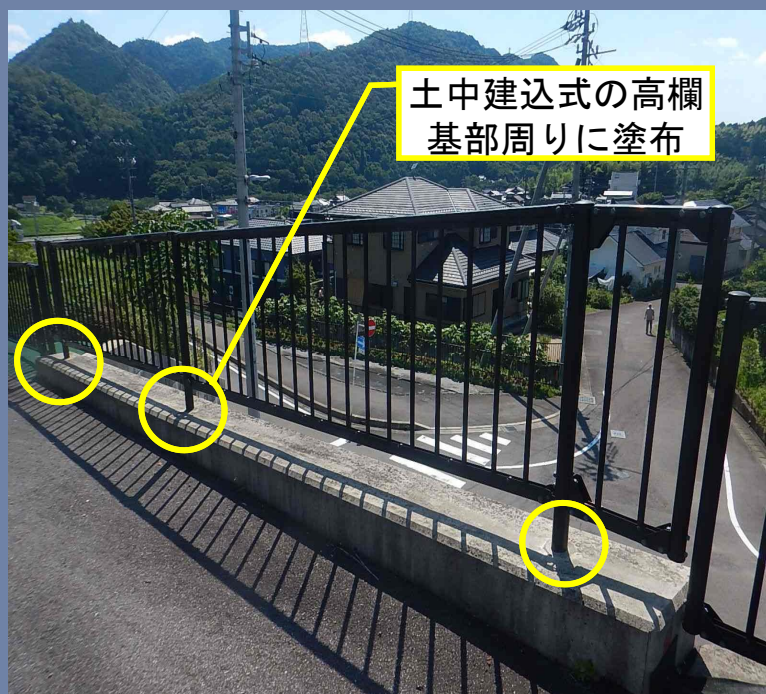
【施工目的】
ボルトキャップの代替として、アンカーボルトへの水の浸透を防止するため新設時から塗布



事例②

【施工箇所】
ベースプレート方式の高欄基部

【施工目的】
雨掛かりを受けて腐食しやすい高欄基部の腐食を防止するために新設時から塗布

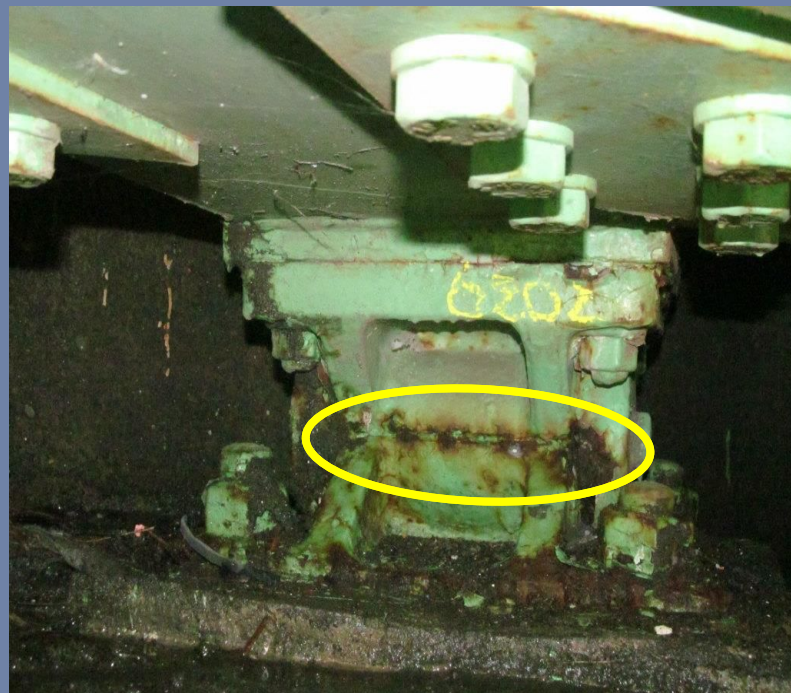


事例③

【施工箇所】
埋込み方式(ベースプレートが無い形式)の高欄基部

【施工目的】
雨掛かりを受けて腐食しやすい高欄基部の腐食を防止するために新設時から塗布

橋梁補修DIY事例-シリコン製潤滑剤-



事例①

【施工箇所】
鋼製支承

【施工目的】
腐食によって桁追従機能を阻害された可動支承
の潤滑剤として活用



事例②

【施工箇所】
ボルト部分

【施工目的】
腐食によって桁追従機能を阻害された可動支承
の潤滑剤として活用

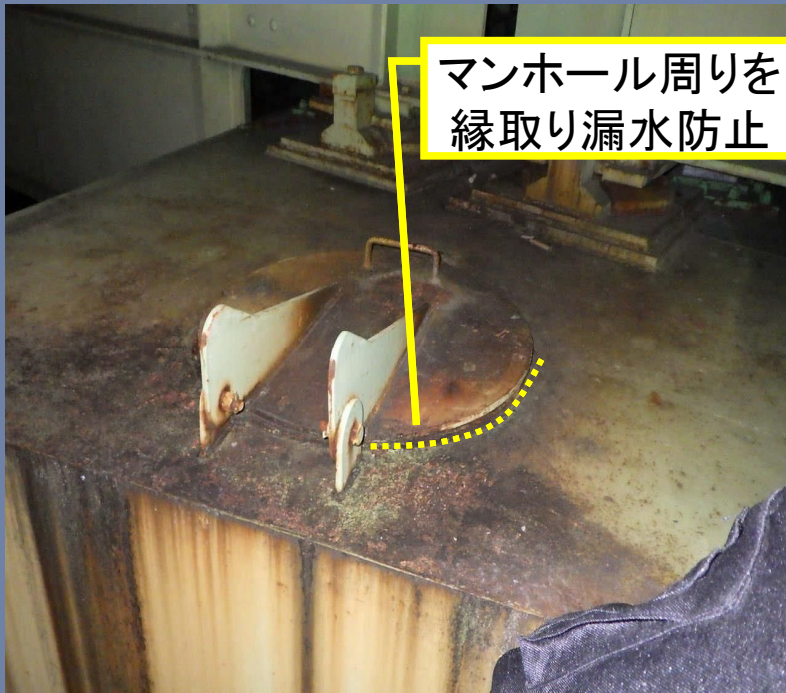


事例③

【施工箇所】
照明柱基部のアンカーボルト・ナット

【施工目的】
極小面積の腐食部に対する防錆

橋梁補修DIY事例-シリコン製注入材-



事例①

【施工箇所】
鋼製橋脚内部に侵入するためのマンホール

【施工目的】
水の侵入防止



事例②

【施工箇所】
横断歩道橋目地

【施工目的】
目地充填による桁下への漏水防止



事例③

【施工箇所】
鋼製橋脚と根巻コンクリートの界面

【施工目的】
水の侵入防止

橋梁補修DIY事例- DIY事例-ゴムコーティング材-



事例①

【施工箇所】
ゴム支承の亀裂・ひびわれ

【施工目的】
内部鋼板への劣化因子侵入防止



事例②

【施工箇所】
ゴム製伸縮装置のひびわれ

【施工目的】
内部鋼板への劣化因子侵入防止



事例③

【施工箇所】
ゴム製伸縮装置の剥がれ

【施工目的】
内部鋼板への劣化因子侵入防止

橋梁補修DIY事例-速硬性防草砂-



事例①

【施工箇所】
橋座面の窪みの滞水箇所

【施工目的】
支承周りの湿潤環境の解消



事例②

【施工箇所】
橋座面の滞水箇所

【施工目的】
支承周りの湿潤環境の解消



事例③

【施工箇所】
橋座面の滞水箇所

【施工目的】
支承周りの湿潤環境の解消

橋梁補修DIY事例-エポキシ樹脂補修パター-



事例①

【施工箇所】
ゴム製伸縮装置のボルトホール破損部

【施工目的】
孔食箇所の補修（通行人の躓き防止・腐食の進展抑制）（耐荷部材以外が対象）



事例②

【施工箇所】
横断歩道橋階段部主桁ウェブに生じる孔食
※耐荷性能の向上は見込めない

【施工目的】
腐食の進行抑制、歩行者の躓き防止



事例③

【施工箇所】
横断歩道橋階段部主桁ウェブに生じる孔食
※耐荷性能の向上は見込めない

【施工目的】
腐食の進行抑制、歩行者の躓き防止